

「いきなりエイズ」ってご存知ですか？

新潟大学医歯学総合病院 顎顔面口腔外科 高木律男

ご存じのように、HIV 感染によりエイズ（後天性免疫不全症候群）が発症します。HIV は血液、精液、などの体液を介して感染拡大するため、輸血、性交渉、出産、等により感染する可能性があります。すなわち、肝炎ウイルス（HBV, HCV など）と同じ感染経路ですが、感染力としては肝炎ウイルスに比べるとかなり低いとされています。それにも拘わらず、これだけ敬遠されるのはなぜなのでしょう？しかも、一般市民のみでなく、医療従事者においても、受け入れを拒むなどの問題がマスコミに取り上げられることがあります。まずは医療従事者が正確な知識を共有し、医療スタッフや患者さん、そして一般市民の方々にも適切に対応していかない限り、いつまでも感染に対する恐怖をぬぐいさることはできません。

例えば「いきなりエイズ」という言葉がどういう状態を表現しているのか正確に答えられますか？HIV 感染症について「約 3 か月間における新規 HIV 感染者報告数は 267 件で、新規エイズ患者報告数は 118 件でした。合計は 385 件で、全体に占める新規エイズ患者報告数の割合が 30.6%でした。（平成 27 年 8 月のエイズ動向調査報告から）」と記載がある場合、「新規エイズ患者」がタイトルで示した「いきなりエイズ」の患者さんということになります。ここまでは多くの先生方が理解しているかと思います。「いきなりエイズ」という言葉が適切であるかどうかの問題になったことがあります。適切な表現かどうかは別として、とにかく HIV 感染症に罹患しても、ご自身が感染していることに気付かず、体調不良（エイズ発症）を機会に医療機関を受診して検査を受けた結果、HIV 感染が発覚する患者さんの割合ということになります。この人達がエイズを発症する前に歯科を受診するとしたら、HIV 感染を歯科医師に告げることができるわけがありません。本人も発症後血液検査により始めて HIV 感染を告げられることになるわけで、かなりのショックを受けることになります。しかし、実はこの時期のウイルス量はエイズを発症するだけの量に達しているため、他の人への感染力が比較的高い状態と考えられます。近年では HIV に感染しているとわかると、血液検査でウイルス量を確認しながら、抗ウイルス薬の内服により、ウイルス量のコントロールが可能であり、エイズ発症を抑えることも、歯科治療に際してウイルス量を把握して情報交換することも可能となります。歯科医師が HIV に感染している歯科患者さんを診察するとか、しないとかという意味の問題でなく、わずかながらでも増加している HIV 感染者のことや、他の未知の感染症が潜んでいる可能性を考えると、日常診療において標準予防策をとることがいかに大切であるかが良くわかると思います。

今回の講演では、1980 年初頭から問題になって既に 35 年ほどを経過する HIV/AIDS への対策を通して、感染対策がどのように変遷し、その対策（標準予防策）を守ることによ

り医療従事者が多くの感染症から身を守ることができるようになったことも含めて、HIV  
感染症の現状についてお話ししたいと思います。